

第5回長門湯本温泉みらい振興評価委員会 議事概要

日 時	令和4年7月4日（月） 15:00~16:50
出席者	別紙のとおり
<p>【審議・検討事項】</p> <p>(1) 長門市の令和3年度の実績結果について ⇒ (伊藤) 基金の取り崩しに関して「委員会に諮る」仕組みを確認する必要がある。</p> <p>(2) 長門湯本温泉まち株式会社の令和3年度実績結果及び観光地経営に関するモニタリング結果の報告について</p> <p>(3) 恩湯事業について</p> <p>(4) 質問事項について</p> <p>(5) 令和3年度の実績結果に関する評価について</p> <p>(高橋委員)</p> <p>■まち会社の事業実施について</p> <ul style="list-style-type: none">・コロナ禍での新しい取組を評価。・情報発信では、ブランディングをぶらさず、クオリティの高い発信を維持している。・従業員満足度を測ったことは評価、生活者関与度は今後期待。 <p>■長門市の取組について</p> <ul style="list-style-type: none">・情報発信について、ターゲティングをまち会社が行っているため、行政やCV協会がサポートを。 <p>(田中委員)</p> <p>■まち会社</p> <ul style="list-style-type: none">・官民接続公共空間の活用については評価。・目指すべきまちのビジョンづくりと共有、それに対するアクションプランの整備が必要。・伝統的な活動と新規や社会実験的な活動の2階建ての構造で、エリアイメージ形成してはどうか。 <p>■長門市の取組</p> <ul style="list-style-type: none">・基金の取り崩しについて事前に評価委員会に相談がなかったのが残念。・専門委員会に事前相談するなどの仕組みを検討してほしい。・景観インフラ調査。修繕に関する迅速な対応が不可欠。・新設、改修等、今後エリアマネジメントの観点に基づく設計者選定の仕組みを検討してほしい。・景観修景のプロセスを共有できる仕組みを検討してほしい。・プロモーションはコンセプトが必要。 <p>(中尾委員)</p> <p>■まち会社</p> <ul style="list-style-type: none">・長門湯本温泉の露出が実感できるのは評価。・地道な取り組みだが、地域の人材育成は継続してほしい。・インバウンドに対する具体的なアプローチをそろそろ考えてもいいかもしれない。 <p>■長門市の取組</p> <ul style="list-style-type: none">・トイレの持続可能な維持管理方法を具体的に検討してほしい。 <p>(のかた委員)</p> <p>■まち会社</p> <ul style="list-style-type: none">・二次交通については充実してきているのもあり、期待している。・うたあかりの演出に感動した反面、滞在時間を延ばす仕掛けが必要。・枕水の廃業は残念だが、今後の活用方法を検討していくべき。・温泉旅館が「主要3軒以外」が見えづらい。今後増えていくように公民連携でサポートできれば。 <p>■長門市の取組</p> <ul style="list-style-type: none">・公民連携だからこそ全国から注目されている取組であるし、全国的な温泉街再生のモデルとなるため公民連携をより強化してほしい。	

(林委員)

■まち会社

- ・観光プロモーションやPR という点では評価。
- ・地元の巻き込みを強化してほしい。観光業のみだけでなく地域の人たちの意識がどう変わって、どういう活動になったのか是非測定してほしい。

■長門市の取組

- ・照明に関しては温泉街のネガティブな印象につながるため、迅速に修繕をお願いしたい。
- ・トイレについては、作ることが決まった以上どのように運用すべきかしっかりした議論が必要。
- ・修景については届け出が増えてよいと思う反面、その形成プロセスや長門湯本温泉街として公共性の高いものを優先する仕組みを検討してほしい。

(星野委員)

■まち会社

- ・委員会の存在が“理想的な場”となっていることから、是非継続してほしい。

■長門市の取組

- ・委員会の存在が“理想的な場”となっていることから、是非継続してほしい。
- ・トイレについては便器の数が少なければ少ないほうが良いというのが自論。コスト面や清掃スタッフのモチベーション維持というところから、温泉街全体の便器の数を議論してはどうか。
- ・市長とまち会社、伊藤代表、木村エリマネのコミュニケーションをもっと取っていくべき。

(梅川委員長)

■長門市の取組

- ・基金の取り崩しについて条例を確認し運用してほしい。
- ・委員のコメントに対して、市やまち会社がどう対応するか示すことが必要。
- ・議事録を作成・提出してほしい。
- ・今年度の事業計画を明確に示すべきではないか（評価の観点から）。
- ・次回みらい振興評価委員会の開催時期を予算要求に合わせて早めてはどうか。

(長門市：堀部長)

- ・二次交通についてはインバウンドも見据え、関西から長門市の夜行バスの走行支援、継続して新山口駅からの直行バス、新たに県と連携して宇部空港からの直行便を実施予定。
- ・関西万博を見据え、県と連携し、欧米だけでなく東アジアからの誘客も狙っていく。
- ・ディスカバージャパンの英語化について、今年度予算をとって実施予定。
- ・基金の取り崩しについては正当なプロセスで運用していき、専門委員会を責任もって運営していく。
- ・照明灯具については、調査までに時間がかかっているが迅速に対応する。
- ・トイレについては今後の衛生・維持管理について、しっかり検討し説明していく。
- ・連携体制については、連携すべき関係機関から今年度職員を配属したことから強化。
- ・コンベンション協会にて長門湯本温泉宿泊者向けのオプションルツアーを実施おり、インバウンドも見据えて運営していく。
- ・枕水の廃業対応について、今後委員の意見ももらいながら進めていきたい。

(長門市：江原市長)

- ・関西万博においても、関係団体と協議を始めているところである。
- ・インバウンドについても、具体的には台湾の富裕層をしっかりと取り込んでいく。
- ・二次交通について、関西からの高速バス、宇部空港からの乗り合いタクシー、西鉄バス等充実してきておることから、今後は広島方面も考えていく必要がある。
- ・オプションルツアーについては、三次交通対策として、ホテルのフロントでの案内や今後ホテルのホームページにも掲載してもらおう予定としている。
- ・トイレについては、衛生・維持管理が大事。清掃を1日2回は実施し、試験的に様子を見ていく。
- ・照明灯具については、可及的速やかに修繕対応予定
- ・枕水の廃業については、概算のシミュレーションは実施しているので、今後検討していく。
- ・まち会社とのコミュニケーションも、今後地元も含めてコミュニケーションをとっていく。

(まち会社：木村エリマネ)

- ・オープンな場で、個別に市長からご意見いただいたのは大変ありがたい。
- ・今後も、市・地元ともコミュニケーションをとりながら進めていきたい。
- ・補足として、照明の修繕対応が議論となっているが、地元の協力も得ながら、魅力としては維持しているところである。

(まち会社：伊藤代表)

- ・集客という点で市に貢献しないといけない事業であることから、のびしろ部分を伸ばしていきたい。

以上

■7月4日 第5回長門湯本温泉みらい振興評価委員会 参加者名簿

	分野	所属	氏名	出欠
1	学識経験者	國學院大学	梅川 智也	オンライン 参加
2	メディア	株式会社ディスカバージャパン	高橋 俊宏	オンライン 参加
3	建築・空間デザイン	熊本大学大学院	田中 智之	オンライン 参加
4	まちづくり・金融	元株式会社WAKU WAKUやまのうち	中尾 大介	オンライン 参加
5	ジャーナリスト	旅ジャーナリスト	のかた あきこ	オンライン 参加
6	コミュニティデザイン	株式会社ロフトワーク	林 千晶	オンライン 参加
7	観光業	星野リゾート	星野 佳路	オンライン 参加
エリアマネジメント 事業者		長門湯本温泉まち株式会社	伊藤 修一	オンライン 参加
		長門湯本温泉まち株式会社	木村 隼斗	オンライン 参加
長門市		長門市	江原 市長	オンライン 参加
		長門市経済観光部	堀 部長	オンライン 参加
		長門市経済観光部観光政策課	高橋 課長	オンライン 参加
		長門市経済観光部観光政策課	山下 班長	オンライン 参加
		長門市経済観光部観光政策課	末永 班長	オンライン 参加
恩湯事業者		長門湯守	大谷 和弘	オンライン 参加
		星野リゾート 界 長門	幾竹 支配人	オンライン 参加